

神戸市総合基本計画審議会第1回都市空間部会 会議要旨

神戸市総合基本計画審議会
第2回都市空間部会 資料3
平成21年9月28日

日時： 平成21年8月28日（金）10：00～12：00

場所： 神戸市役所1号館14階大会議室

出席委員：安田丑作部会長ほか委員18名

【会議要旨】

- ・企画調整局末永参事、安田部会長の挨拶のあと、事務局より、第1回総会会議要旨（資料3）及び今後の都市空間部会の運営（資料4）について説明があった。
- ・安田部会長から議事次第に従い議事に入る旨発言があり、本日の議題である「都市空間部会審議資料」（資料5）について、事務局より順次、説明が行われ、審議された。

（審議内容についての委員意見は以下のとおり。）

【議題：全体構成 及び 1 めざす都市空間の全体像】

（全体的な考え方）

- ・人口減少社会に対応するため、人口密度を低下させるのか、まちを縮退させるのかということも大きな視点で捉えておくべきである。特に田園部、ニュータウンをどう考えるのか。
- ・総論的に将来をめざす方向を書くことは分かるが、過去の反省に立つことが必要ではないか。
- ・これまでの神戸のいいところを伸ばしつつ、やはり転換する部分は、このように取り組んでいくという決意・姿勢がこのマスタープランの全体像にいるのではないか。
- ・すばらしい人材という資産があることに気づいていないのではないか。市民との協働という文章表現はあるが、具体的な取り組みの形が見えない。
- ・例えば「3 地域が主体的に取り組む地域環境をつくる」では、今までの経験をふまえた記述にはなっているが、取り組みの方向性のところへもう少し具体的な文言を盛り込んでほしい。
- ・具体的な取り組みの表現について、指針と重点施策計画の書き分けの整理が必要である。
- ・基本的な視点に「都市空間の形成を市民・事業者とともにめざしていきます。」の記述があるが、災害も環境も人が一番大きな問題になる。3の「人が交流・融合する「みなと」の創造」のところで記載している文言を基本的視点のところへもっていくべき。例えば、「活力・知力・魅力にあふれ、人と人が強い絆で結ばれた都市空間の形成をめざします。」としたほうがよい。
- ・まちづくりには外部の力が必要であり、都市空間では市民ということに限らず、広く、多くの人と捉える方がよい。

（災害などの危機に備えた安全な都市空間の形成）

- ・南海、東南海地震が2020年から2040年の間に起こるといわれている。今回の15年の計画に、東南海地震などに対応した都市機能を備えるなど、記述内容を充実させてはどうか。また、どんなイメージの災害が起こるのか市民に伝える記述の工夫が必要ではないか。
- ・地震が起こっても、被害については場所ごとに異なる。表面上同じに見えても、その土地がどのような成り立ちでできているのかを知ることが大事である。

（デザインの視点で磨かれた魅力ある都市空間）

- ・デザイン都市・神戸だが、そのドライビングフォースが大事と感じている。デザイン都市・神戸について、市民を巻き込んで、理解を深める取り組みが必要である。

- ・夜間景観をクローズアップしてほしい。イベント的ではなく、固定した形での夜間景観の創出により神戸らしい景観をめざすべきではないか。
- ・神戸にもっと人に来てもらうためにどうするのかの背骨の部分が見えにくい。神戸には対内的、対外的にアピールできるはっきりとした顔が必要だと思う。

(低炭素社会を実現する持続可能なまちをめざして)

- ・新しい環境産業や環境に寄与する技術を地域特性に合わせ、活かしていく視点が必要である。
- ・ゾーンごとに、自然の資源をいかし、ポテンシャルを保全・活用・発展させ、適切な土地利用を誘導することも重要になる。また、新しい環境産業により、神戸の活力を高めるとともに、自然の保全などうまく共存できる計画とする必要がある。

(めざす都市空間の全体像 図面について)

- ・ゾーン構成について、神戸は、まち、田園、みどりのゾーンだけでなく、まちと一体となった海（水、水面）のイメージが重要である。
- ・水とみどりの戦略についても海や河川を意識した記述が少ない。河川については六甲山系から瀬戸内海に対して直接流れ込んでいることが神戸の大きな特徴であるが、防災面も含めて空間構造や文言でも触れられていない。
- ・各ゾーンが相互に接している部分も非常に重要である。
- ・全体像の図では、従来の動脈型で物や人の動きに対応したインフラを整備する印象を受ける。環境インフラなど静脈型の部分が見えてこない。静脈型には表現が難しいが、歴史資源も含まれる。
- ・図を見ると、東西の交通は充実しているが、田園地域など六甲山を越えた部分を含め南北の交通ネットワークが薄い。ブラジルのクリチバ市のバスをうまく使った交通システムなどを神戸市でも考えられないか。また例えば元町から三宮までについては、車の乗り入れを規制し、歩行者天国のようにしてもよいのでは。

(用語、構成について)

- ・地域力、知力 などの言葉がわかりにくい。定義や使い方については工夫が必要である。
- ・全体像の構成について、1では4つの基本的な視点、2は横断的な低炭素社会の実現、3は神戸で特に打ち出しとしてやることが記載されている、というような全体構造の解説が必要である。

[委員からの主な意見に対し事務局より行った回答及び補足説明は以下のとおり。]

- ・転換点における計画であること、また環境に関すること、ゾーンの概念(水の視点)、全体像の相互関係については、原案作成の中で、記載内容について検討していきたい。
- ・南北交通軸について、都心域の交通ネットワーク図を提示しているが、南北の軸を記載するなど、南北交通についても大事であると考えている。
- ・人口減少という予測について、出生率をあげることや神戸に人を定着させる努力も必要と考えているが、大きな単位で今後とも人口増加を前提とするのは難しいと考えている。取り組みの目安として、概ねの今の人口を想定し、市街化区域の拡大を抑制する方向を示している。
- ・市民との協働について、具体的な取り組みの検討にあたり市民・事業者と情報を共有しながら進めていきたい。

【議題：2 めざす都市空間を形成するための分野別の取り組み

(1) 秩序ある土地利用の誘導 (2) 海・空・陸の総合的な交通環境の形成】

(秩序ある土地利用の誘導)

- ・社会情勢をふまえると、今回はディフェンスの計画を作ることだと思う。ディフェンスは悪いイメージをもたれるが、それができないとまちがもたない。その中でどういう都市像を打ち出すのか。土地利用は、市街化区域の拡大抑制などディフェンシブな発想で書かれているが、明確な表現が必要。また、もう少し踏み込んで、縮退など守れないところも出てくることに触れ、守れないところのサポートの記載も重要である。
- ・田園ゾーンの記述に地産地消、まちづくりとの連携というキーワードをいれてはどうか。また市民の食生活を守る視点で、自給自足をめざすことを記載すべきでは。(水と緑を大切にした都市空間の形成)
- ・都心域での高層マンションの問題は、喫緊の課題である。
- ・秩序ある土地利用の空間像を実現するために人がどう関わるかということも、記載が必要。全体像のところ、みどりを維持するための地域別の取り組みや協働についての記述があれば整合性がとれる。

(海・空・陸の総合的な交通環境の形成)

- ・2(1)①広域交通ネットワークの形成は非常に大事な取り組みであるが、財政が大変な状況でほとんど実現が不可能だと思う。都市計画道路内は規制がかかるが、計画決定後、放置されており、プライオリティの検討・実施が必要。
- ・交通については、既存の公共交通の有効利用とあるが、既存交通インフラの利用とそのメンテナンスが非常に大事である。
- ・超高齢化社会への対応は公共交通だけではないと思う。パーソナルな移動手段も含めた記載が必要では。新しい公共交通のあり方を含め、検討いただきたい。
- ・道路空間については、既存ストックを活用するという観点から、もっとワイズユースすることで、可能性を持った空間になると思う。例示としては環境への寄与として、風の道や蓄熱をしない道などがある。
- ・事務局案のめざす将来像に、ウォーターフロントのあるべき姿について記述があるが、阪神高速、国道2号のバイパスの撤去といった表現を入れるべきでは。景観の点からもマスタープランで方向性だけでも記述すべき。
- ・ベイシャトルの話よりは、長期的な視点から関西3空港の一体運用にも触れる必要があるのでは。

[委員からの主な意見に対し事務局より行った回答及び補足説明は以下のとおり。]

- ・ウォーターフロントのあるべき姿、地産地消などについては、重要であると認識しており、原案作成にあたって記載内容について十分検討していきたい。
- ・都市計画道路については、都市の骨格となる道路や地域の生活を支える道路として何が必要かを充分吟味し、未着手や事業中の路線を対象に、廃止も含めて見直しをしていきたいと考えている。

- ・部会長により、本日の議事に係る質疑応答の終了が告げられ、今後も意見票等により事務局にて意見を受け付ける旨が伝えられた。
- ・最後に、事務局より今後の部会の開催日程について、資料に基づき説明を行った。
- ・部会長により閉会が告げられ、本会議は終了した。